鞠智城跡国指定記念シンポジウム企画展

鞠智城跡の歴史

～調査と整備の歩み～

研究のはじまり

鞠智城は『続日本紀』文武天皇（698）年五月の条の修繕記事に始まり、『日本三大実録』元慶二（879）年二月の条を最後に国書から姿を消して以来、所在地すら忘れられていました。

「鞠智城はどこにあったのか？」江戸時代後半から、浦学公正などの学者によって地名や伝承を元に論じられてきましたが、本格的に研究が始まったのは、昭和に入ってからです。大阪毎日新聞の記者や、熊本地層研究会による踏査などで、鞠智城を米原一帯に求める動きが高まるなか、それを決定的にしたのが、のちの肥後考古学会会長、坂本経堯氏（涸水町出身）です。

現地を丹念に踏査した同氏は、昭和12年、「鞠智城址に擬せられる米原遺跡に就て」において、米原の地が鞠智城跡であるとの見解を発表、戦後になっても精力的に調査を進め、研究会誌で発表された結果、米原一帯＝鞠智城跡と認識されるに至りました。

一方で、昭和13年には地元、城北村史蹟顕彰会が標木を立て保護顕彰に努め、昭和28年には「鞠智城の調査保護計画」が県、陳情されるなど、遺跡保護に向けた取り組みも活発化しました。

こうした状況のなか、昭和33年、一般に広く知られていた長者山礎石群と深迫門礎石を含む一帯が「伝　鞠智城　跡」として県史跡に指定されました。

整備前の鞠智城跡の原風景

調査の開始

昭和40年代に入り、米原一帯の開田工事と長者山の一部開発により鞠智城跡の遺構が一部消失するという事態に直面しました。

そこで、県教育委員会では昭和42年～44年度（第1～4次調査）にかけて、当時熊本女子大学教授であった乙益重隆氏を調査団長とする「鞠智城調査団」を組織し、発掘調査を実施しました。

これが、本格的な学術調査の始まりです。

池ノ尾・深迫・堀切の門礎石、馬こかし・三枝の石垣、長者山、長者原、宮野、佐官ドン地区の確認調査のほか、城域の確認を目的とした尾根線の測量がなされるなど、城の構造解明を視野に入れた調査が実施されました。

特に、宮野地区では3間×9間の礎石建物跡、長者山地区では2間×4間の礎石建物跡や多量の炭化米が見つかるなど、より具体的な構造が明らかとなりました。

これらの調査で考古学的にも城域が米原一帯に広がることが立証され、昭和51年、県指定名称が「伝　鞠智城跡」から「鞠智城跡」へ変更されました。

昭和51年県指定時に建立された標柱

調査の継続

昭和54年に、鞠智城跡を縦断する町道の拡幅工事が計画され、菊鹿町教育委員会で第五次調査が実施されました。第四次調査から約10年後のことでした。

このころ文化庁から国指定へ向けての本格的な調査に取り組むよう指示があり、県では国庫補助を受けて二カ年の確認調査を実施することとなりました。昭和56年度には宮野礎石群の調査を行ない（第7次調査）、県史跡に追加指定されることとなります。また、翌年度には、これまでの調査成果をまとめた総合的な調査報告書が刊行されました。

再び調査が始まるのは、昭和61年度からです。これ以降、鞠智城跡では毎年度の調査が実施される

ことになります。

特に、平成2年度から従来の国庫補助事業に加え、県の自主事業である重要遺跡確認調査も加わり、長者原地区全域に調査規模が拡大されました。多くの建物遺構や遺物が発見され、八角形建物跡など、代表的な遺構がみつかったのもちょうどこの頃です。

平成9年度までには、67棟にも及ぶ建物跡が検出されるなど多くの成果が上がり、構造解明に大きな進展をもたらしました。

整備の開始

鞠智城が県内有数の重要遺跡との認識が高まるなかで、その保存と活用の必要性から、平成6年度、『県総合計画』で、歴史公園化を目指した調査・整備が唱えられました。

そこで、県教育委員会は、学識経験者による「鞠智城・跡保存整備検討委員会」を組織し、『鞠智城跡保存整備基本計画』を策定しました。そして、歴史公園の目玉となる長者原地区の整備を開始しました。

平成6年度から四カ年計画で、土地の公有化を図り、平成7年度のモニュメント広場から整備事業に着手し、遺構保護のため礎石の保存処理と埋め戻し工事が実施されました。また、全盛期の景観を復元することを指して、平成九年度に米倉、平成10年度に兵舎、平成11年度に八角形建物、平成12年度に板倉（武器庫）が建設されました。平成11年4月には兵舎に「仮展示場」をオープンするなど活用に向けた取り組みも始まりました。

平成14年4月には、待望のガイダンス施設「温故創生館」がオープンしました。その後、「長者山展望広場」、「休憩所」、「展望所」、「研修施設」も完成し、次第に歴史公園としての姿が整いつつあります。

温故創生の碑

八角形建物跡

調査の現在

西側土塁線における調査指導の風景

平成9年度には鞠智城跡の中心部である長者原地区の調査がほぼ終息し、その整備工事のため北の谷部に調整池が計画されました。このとき発見されたのが、500㎡の規模を有する貯水池跡です。

この年を境に、鞠智城跡の発掘調査は、貯水池跡や門跡を含む外郭構造の確認調査へと移り、現在に至ります。

これまでに、堀門跡や南側・西側の土塁線の調査が終わり、堀門跡では門柱の柱穴の発見や土塁線において版築土塁が見つかりました。また、貯水池跡でも、建築材等を水に浸した貯水場、水汲み場である木組遺構、池を細部に仕切る堰堤、取水口や石敷遺構などの導水施設、池を囲む柵列が見つかるなど、池機能の解明に繋がる発見が相次いでいます。

今後は、貯水池跡の堰堤・池ノ尾・深迫の門構造の確認調査が予定されており、鞠智城跡の構造解明にさらなる進展が期待されます。特に、貯水池跡では、木簡などの文字資料のさらなる出土が予想され、鞠智城の役割などの解明に大きな期待がかかります。

熊本県立歴史公園・鞠智城　温故創生館
（平成16年5月　作成）

この電子書籍は、鞠智城跡の歴史 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版は発掘調査報告等、他の書籍から引用してください。

鞠智城跡の発掘調査報告は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：鞠智城跡の歴史
調査と整備の歩み
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2024 年 9 月 15 日